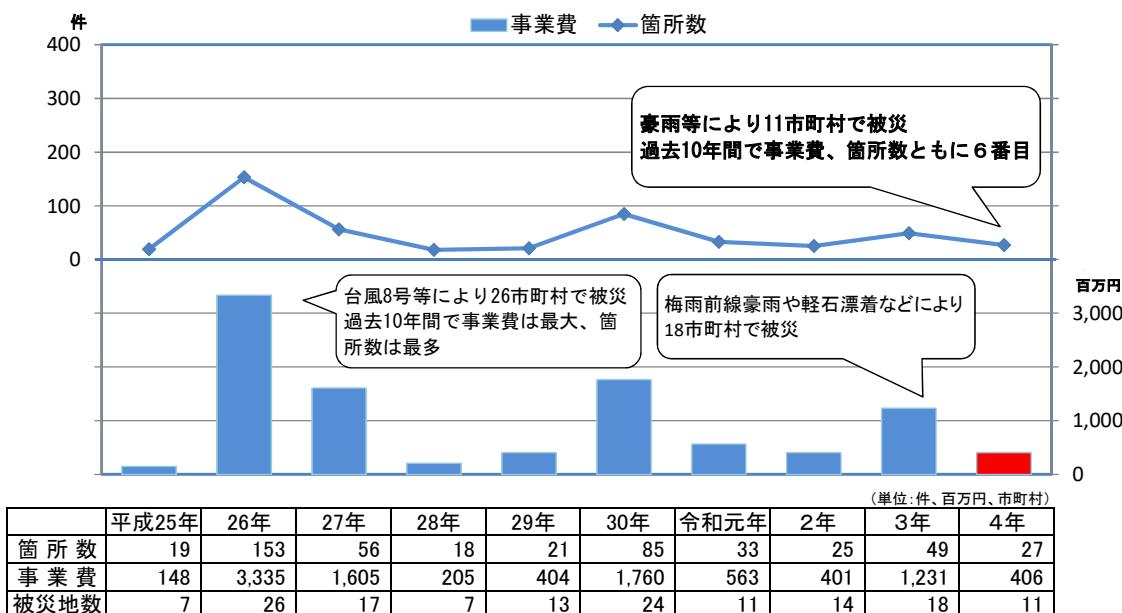


## 令和4年災害復旧事業費の状況について

- 令和4年の災害復旧事業費の査定立会結果は 約4億円
- 過去10年間でみると6番目の規模

### 1. 災害復旧事業費の状況

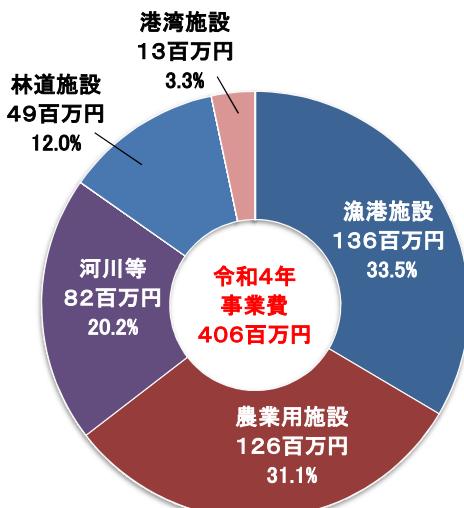
- 令和4年に管内で発生した災害に係る災害復旧事業費の査定立会結果は、27件、406百万円となった。
- 過去10年間でみると、事業費、箇所数ともに6番目の規模となった。



（参考）沖縄地方の天候（抜粋）（出所：沖縄気象台）

- 令和4年 沖縄地方の梅雨入りは5月4日ごろ（平年は5月10日ごろ）で平年より早く、梅雨明けは6月20日ごろ（平年は6月21日ごろ）で平年より早かった。梅雨の時期（5月～6月）の降水量の地域平均平年比は214%でかなり多かった。台風の年間発生数は25個で平年並だった（平年は25.1個）。沖縄県への台風の年間接近数は6個だった（平年は7.7個）。
- 平成26年 台風第8号の接近に伴い、7月7日宮古島地方と沖縄本島地方に全国で初めて台風等を要因とする特別警報を発表した。また、7月19日には沖縄本島地方に大雨特別警報を発表した。

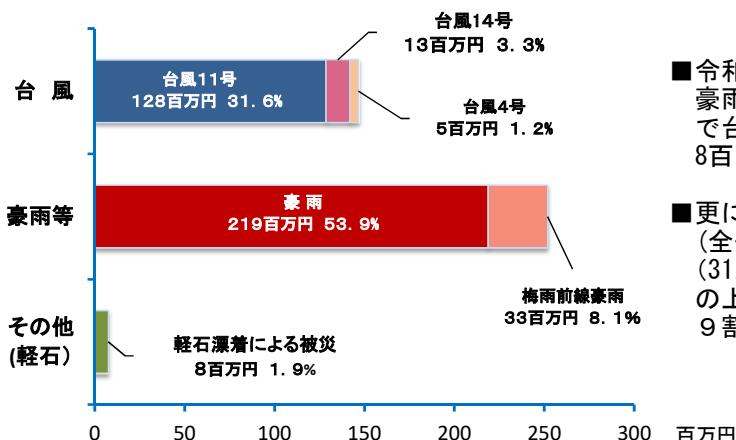
### 2. 施設別の状況



■令和4年の災害復旧事業費を施設別でみると、漁港施設が136百万円（全体の33.5%）、農業用施設126百万円（31.1%）と2施設で6割を占めている。

■次いで、河川等82百万円（20.2%）、林道施設49百万円（12.0%）、港湾施設13百万円（3.3%）となっている。

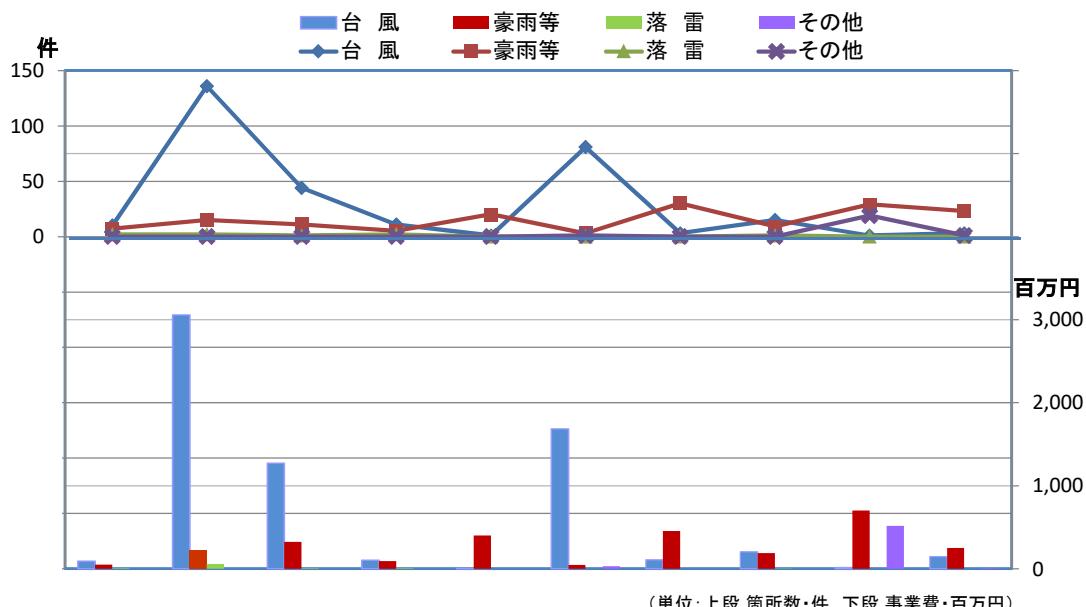
### 3. 災害原因別の状況



■令和4年の災害復旧事業費を災害原因別でみると、豪雨等が252百万円（全体の62.0%）と最も多く、次いで台風147百万円（36.1%）、その他（軽石）8百万円（1.9%）の順となっている。

■更に詳細な原因別でみると、豪雨災害219百万円（全体の53.9%）、台風11号の台風災害128百万円（31.6%）、梅雨前線豪雨災害33百万円（8.1%）の上位3つの原因が4年災事業費406百万円の9割超を占めている。

#### 【災害原因別の推移】



災害原因	平成25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
台風	10	136	44	11	1	81	3	15	1	3
	92	3,059	1,273	105	2	1,684	107	206	14	147
豪雨等	7	15	11	5	20	3	30	9	29	23
	49	218	322	92	402	47	456	190	702	252
落雷	2	2	1	2				1	5	
	7	58	9	8						
その他						1			19	1
						29			515	8

(注)その他:平成30年は地すべり、令和3年及び4年は軽石

#### 【(参考)台風発生等の状況(出所:沖縄気象台)】

	平成25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
台風発生数	31	23	27	26	27	29	29	23	22	25
うち沖縄県接近数	9	10	6	7	7	13	7	6	7	6

※それぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

【お問い合わせ先】  
沖縄総合事務局財務部理財課(主計班)  
電話 098-866-0092